



繪本忠臣藏
三

中村進午文庫
文庫5
702
3



繪本忠臣藏三之卷

繪本忠臣藏三之卷

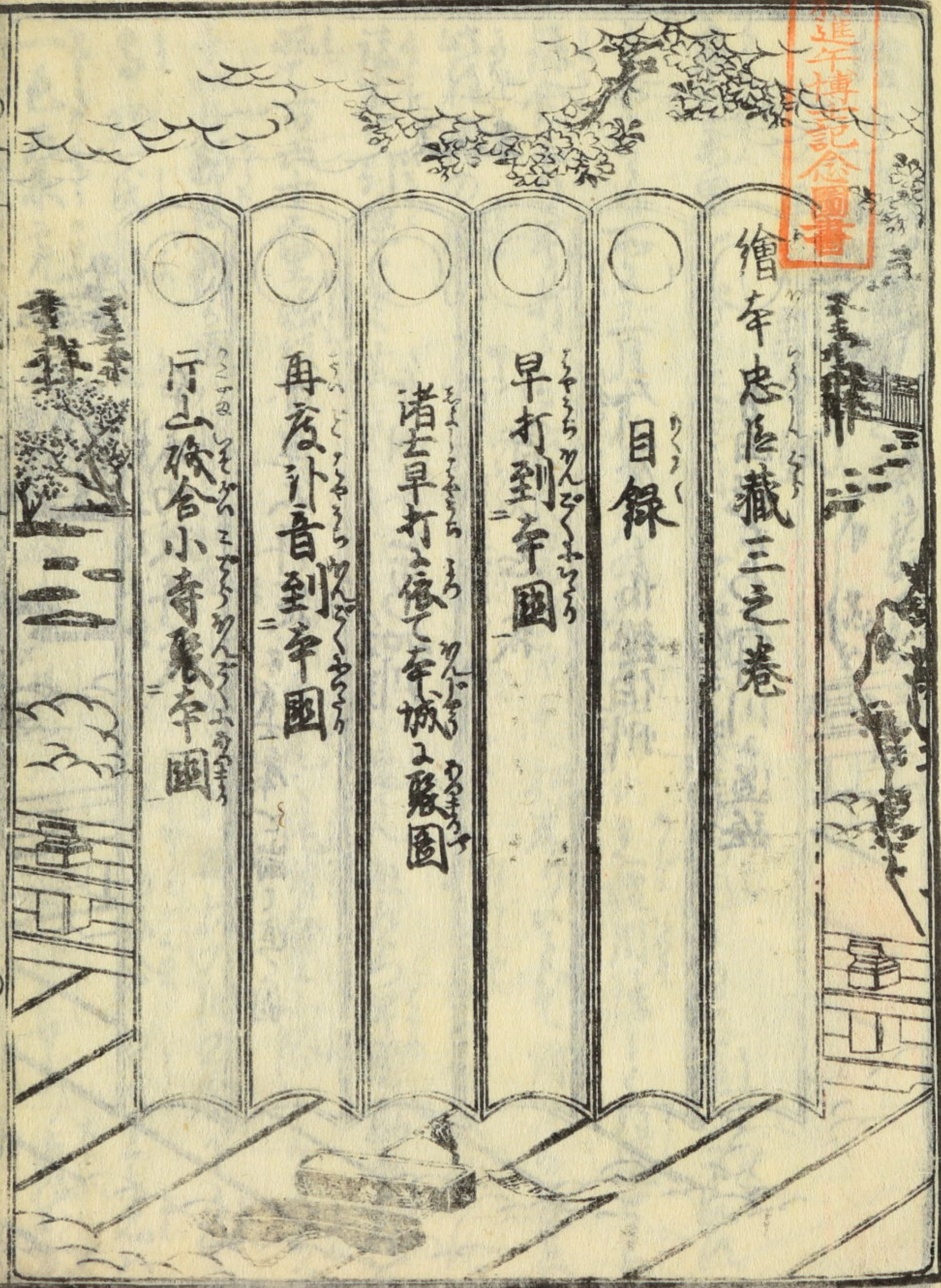
目錄

早打倒幸國

諸士早打倒幸國

再度計音到幸國

行山破合小寺裏幸國



所屬 HBS
部門 IV
513 3
文

所屬 水
部門 中村文庫
番 9690
小番 3

文庫 5
702
3

昭和三十三年十一月二十七日
法政部研究室より授管

昭和五十一十月日
中村木天氏贈



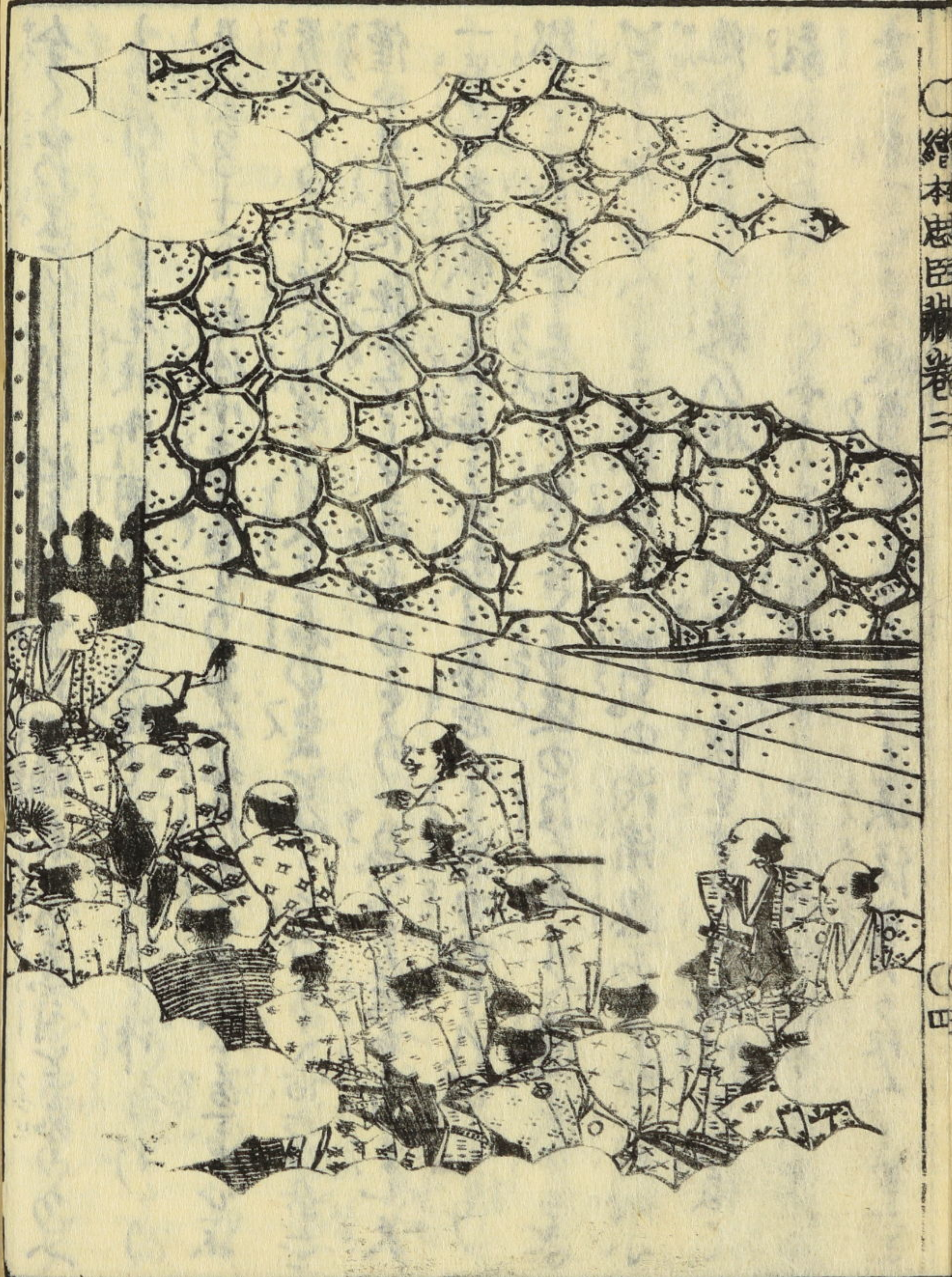
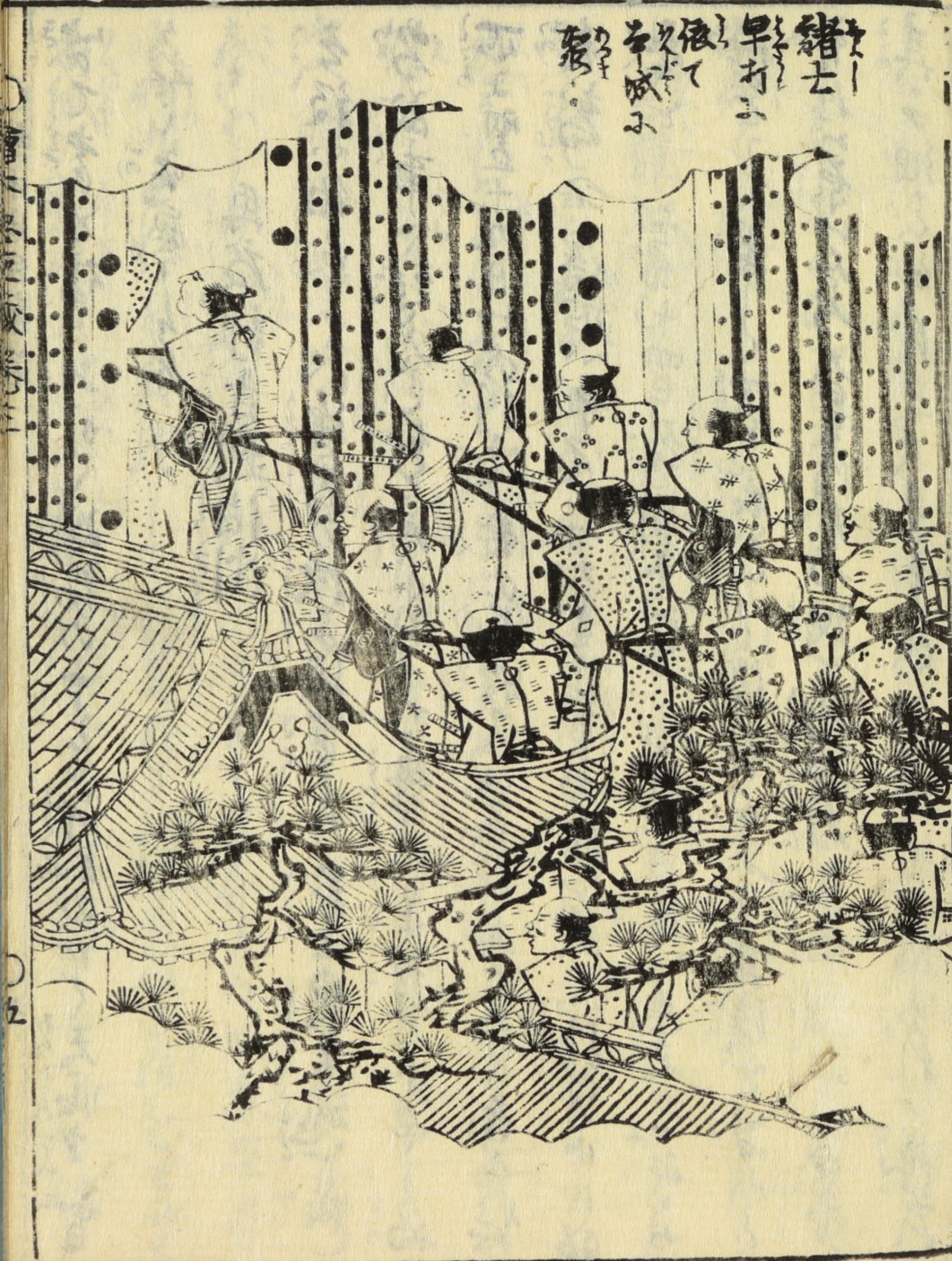
繪本忠臣蔵巻三



初の方の
早打
教國
の

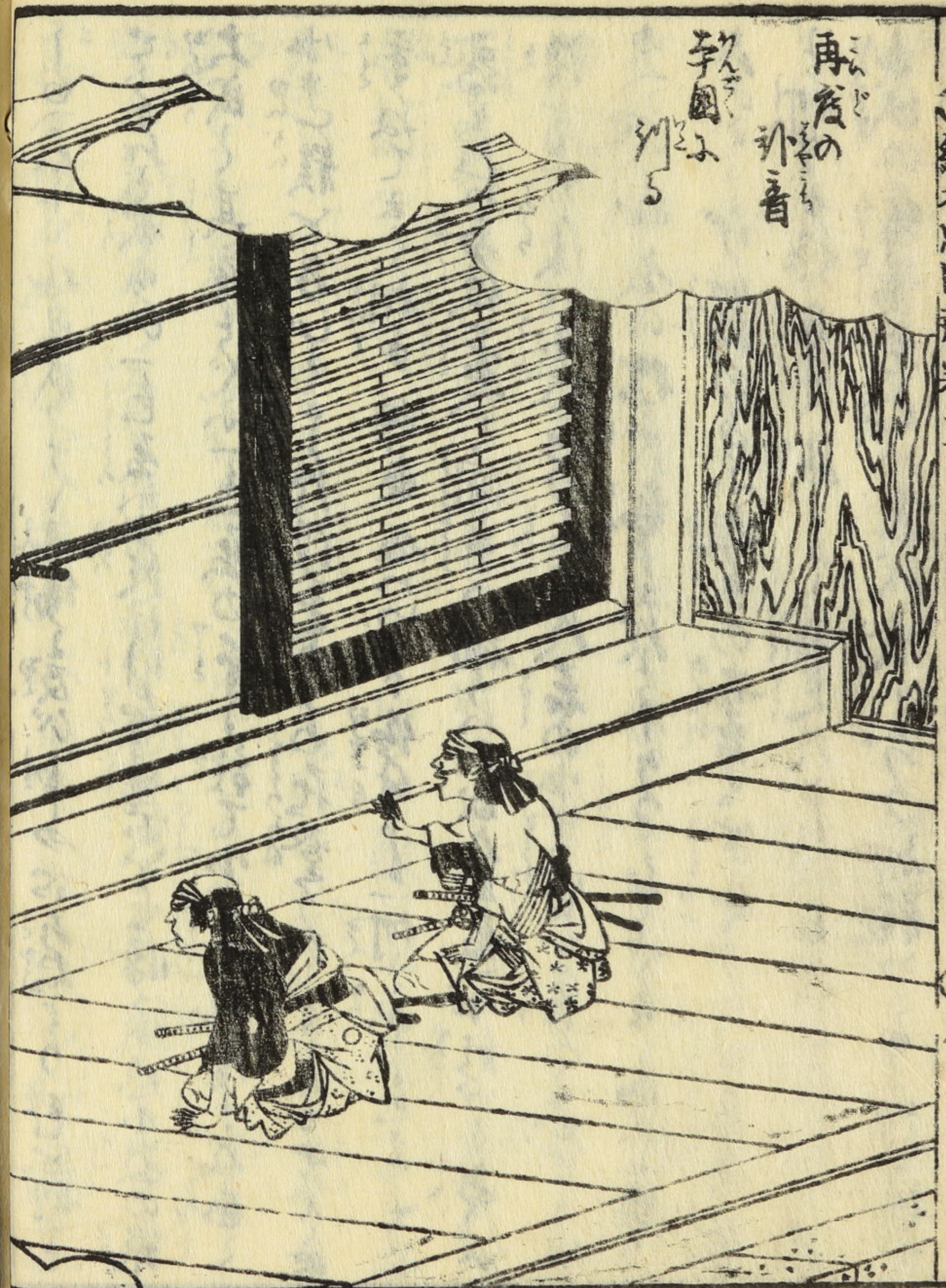
繪本忠臣蔵巻三

緒士
早打
依て
早成
衆



繪本忠臣蔵卷三

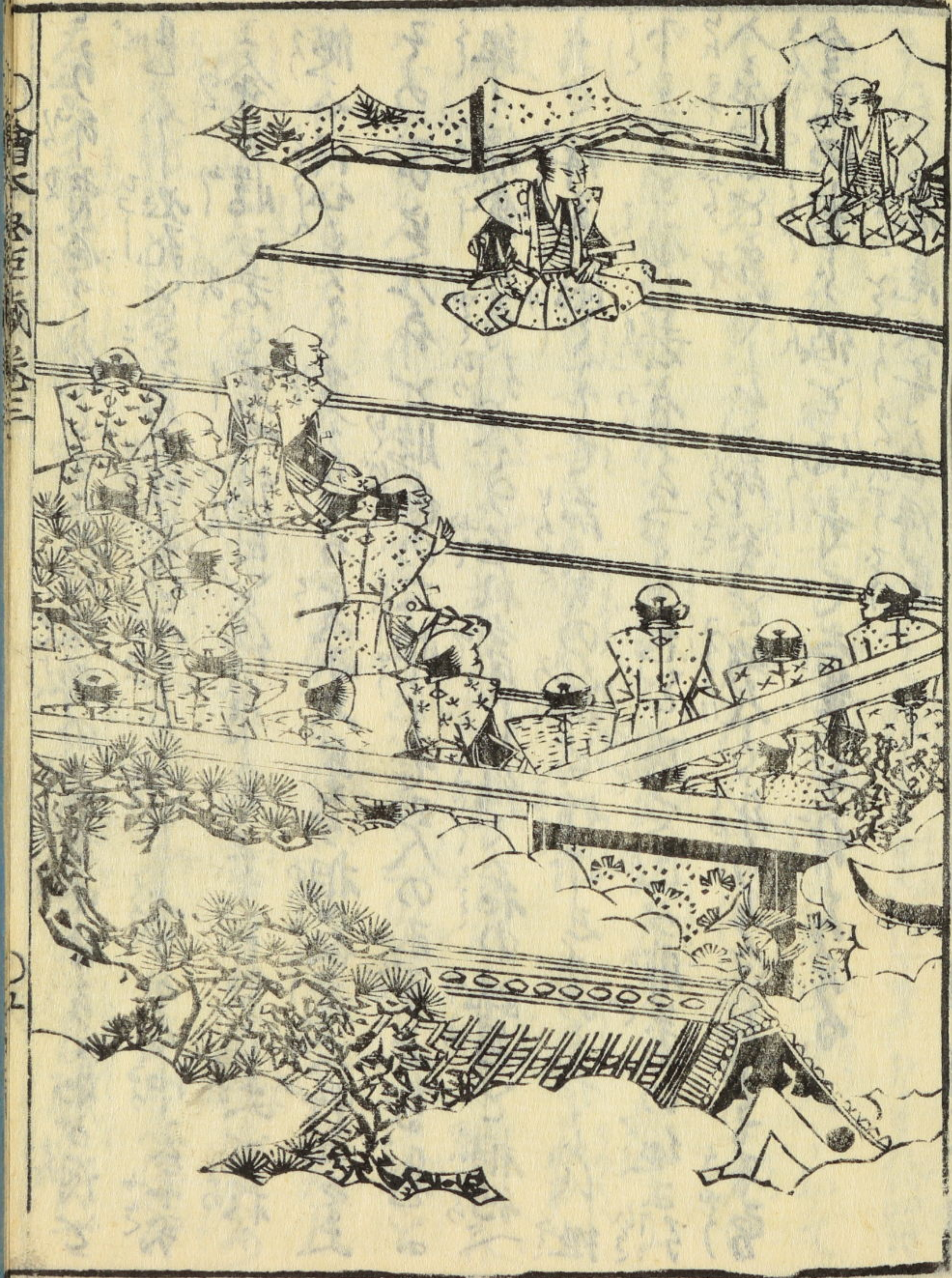
四



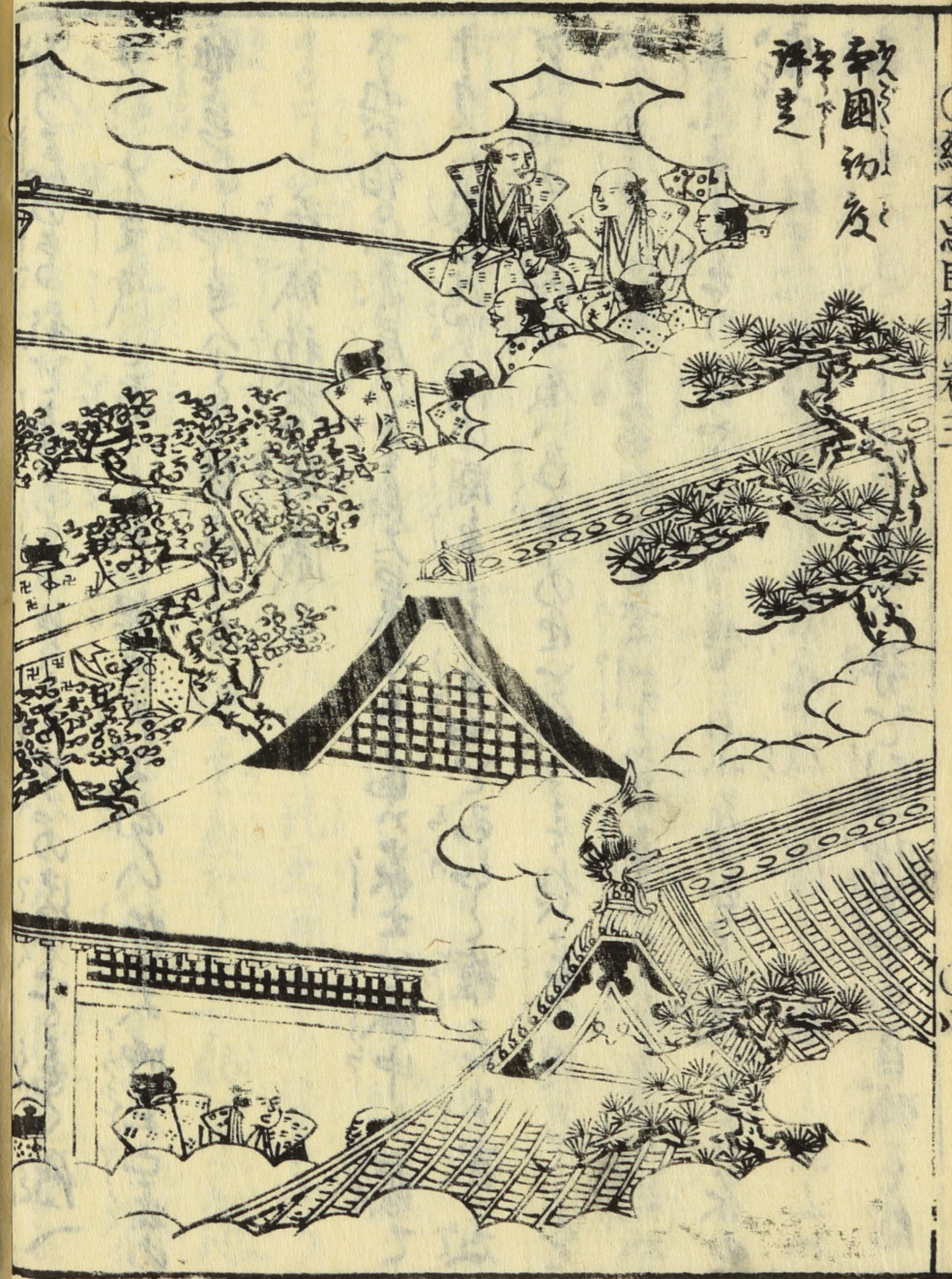
再度の
新音
教國
子
5

續世田繪卷三

五



卷之三



秋國初夜
評定

卷之三

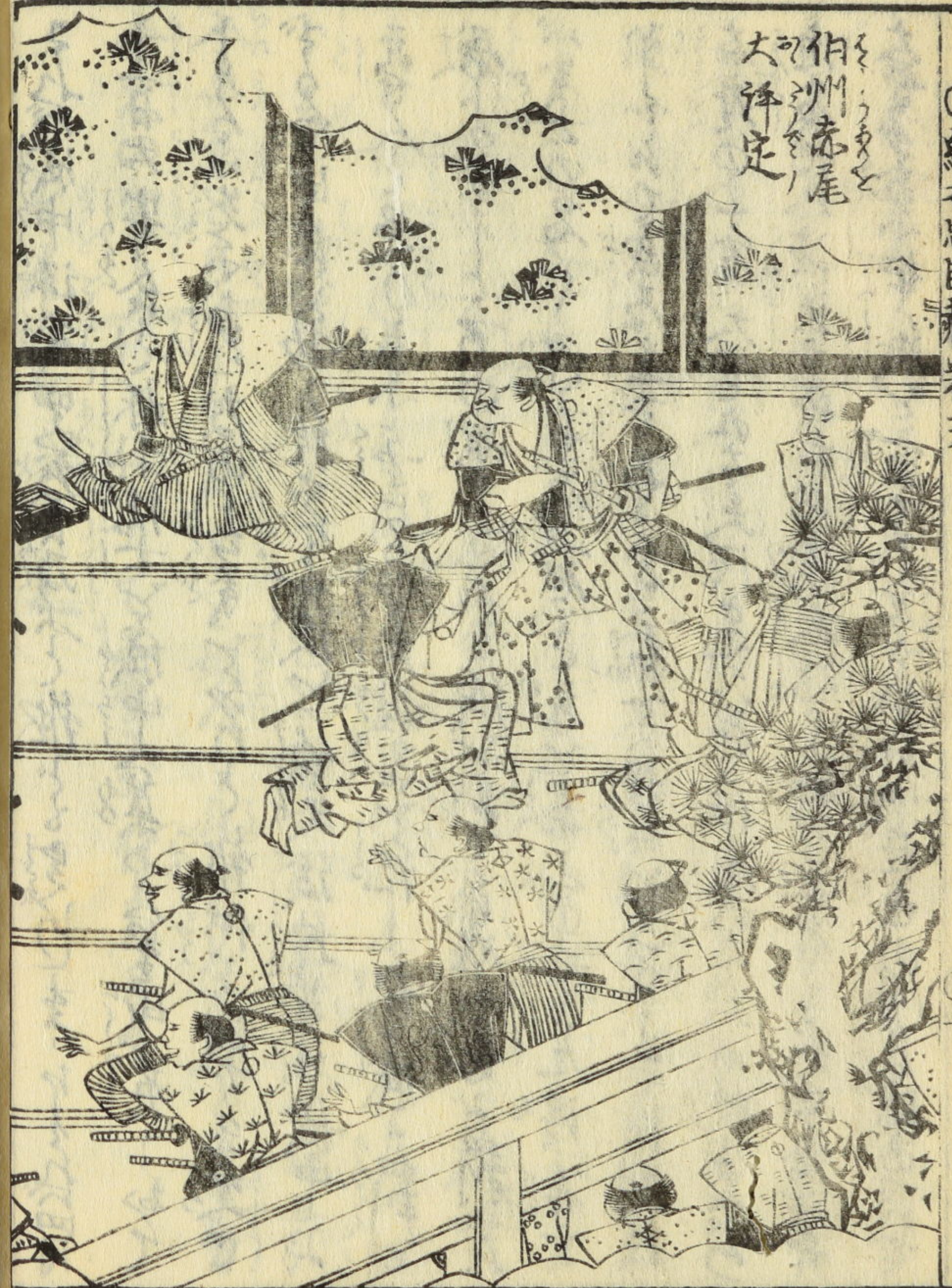
り有りてうべとらんれば後辨の義士ホはらぬが河と
是く必死と定む所哉と亡しと曰ふらるる中々不
命と信じ若も若や信目と信付らるる事とまを
能ふは心ととも多かりたる定ふ大星が相家老六野九を
その子定九弁と臨病の六助とて又人の不義士を是
一掃念又弓引人よりおれ身し但も若の曾目と相約
しと評美一匹とて評美の備と妨げそののとなふ人
下と定と勤む者有らるる下も是と陽て己が非義の
入と定と勤む者有らるる下も是と陽て己が非義の
全之の業と彼と信寄て大星とぞ信らるる

赤尾大寄合評定

この城中評美四の夜よ及びと推ども定りま
十日大寄合と称し徳士と城中に集む大星中英とあて
とるのいふふあ一度のまを定とめんと推何よ固てり
がらや中と定と勤む者有らるる下も是と陽て己が非義の
評美人と是の業と彼と信寄て大星とぞ信らるる
能ふは心ととも多かりたる定ふ大星が相家老六野九を
その子定九弁と臨病の六助とて又人の不義士を是
一掃念又弓引人よりおれ身し但も若の曾目と相約
しと評美一匹とて評美の備と妨げそののとなふ人
下と定と勤む者有らるる下も是と陽て己が非義の
入と定と勤む者有らるる下も是と陽て己が非義の
全之の業と彼と信寄て大星とぞ信らるる



繪本
忠臣蔵
卷三



伯州赤尾
大伴定

繪本
忠臣蔵
卷三

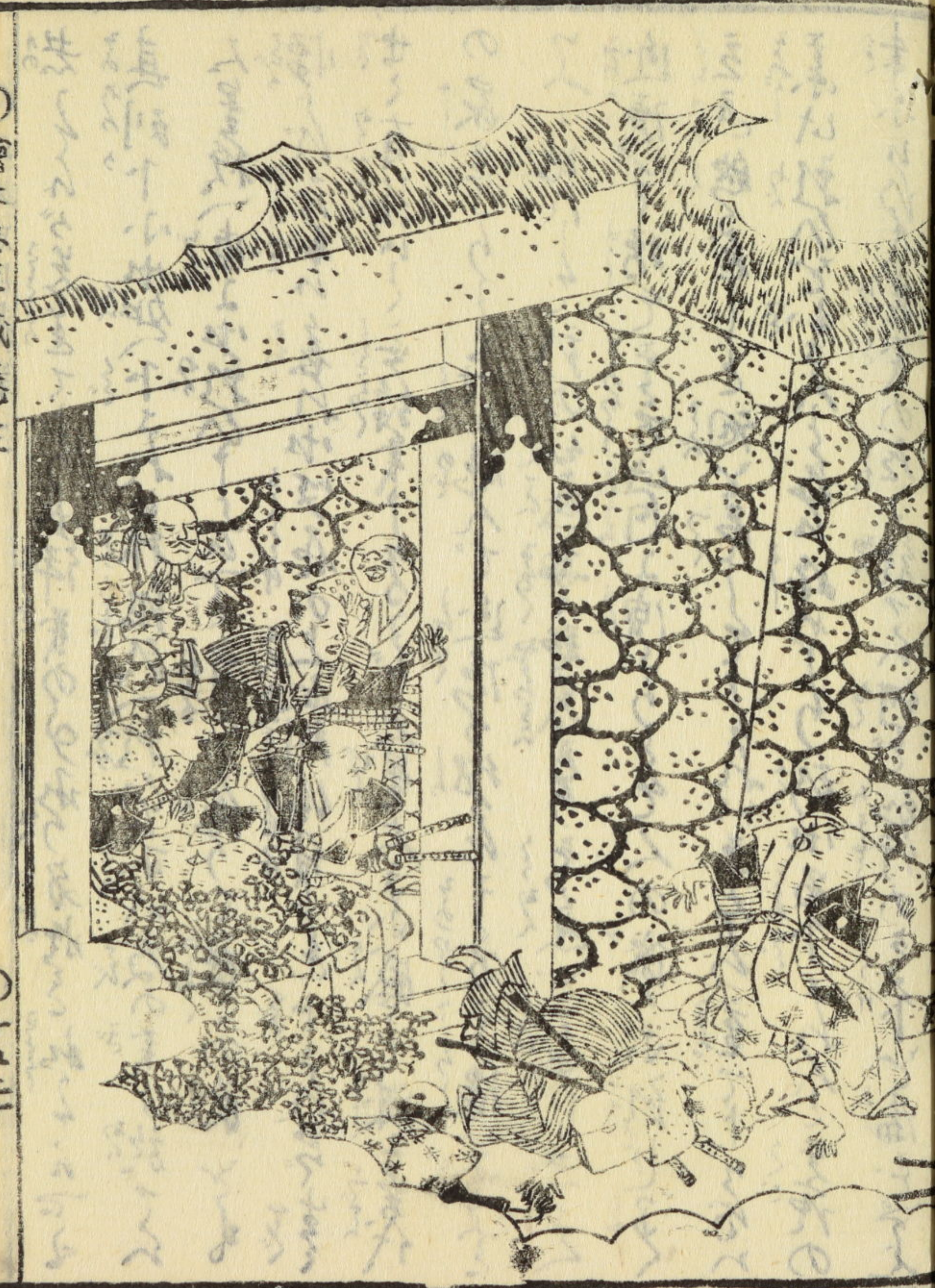


道有欺多ひみとると忠義とせざる列へ生るん忠義の道なり
 況後以て時伴友也人の目士と胸して一月は座と立て金の
 五くは小山傳を道續て彼更の事忠義とせざるれはた
 責をれ伴友が云は及の剛平無偏に絶えしめてこの罪と
 免ふれず地り付へ強ら死せざるがごとく忠義とせざる人忠義を
 ともは別家の下知とめて垣谷の家と再興とせし社奉えけり
 トぞ小山太き小怒り汝漢りふ君の悪と尋る事小早んで後
 の徳痛と教へんする社奉怪く在れえ恨くる君の祿と喰ひて
 いぞとらふも其命と保けらぞ今一そおぶらと切とらんを
 しめりたると大星小寺も人の中又引る地り前二徳念より
 赤尾の城よりとらふ自子打とて知せたるは強り居る事
 ありは後之を尋る事とせまを頼ふ血判しる者多かりたるが
 右の徳と成てまふれも切らぬ衣先と道せらん以無かり
 くる取勢之始の三百五振事人一人はるが強り業位取人
 こぞりたるけしは跡志一人ふし忠義のぬり付と引張城
 中へ討死せんとして争ひあさる

寺園平存衛門加列

室小早倉りの男大廣間の宗平伏一統城の列よ今人事と
 預る者わり大星彼男と道く扱てりりる
 と維村死の列よ今人事と形よは是家中の人と終れは
 中足燈の内成やと為りたるは秘男が尸と上げてトクは
 佐のくお系ハ芳田仲らら下組下の是燈寺園平なる

繪本忠臣蔵巻三



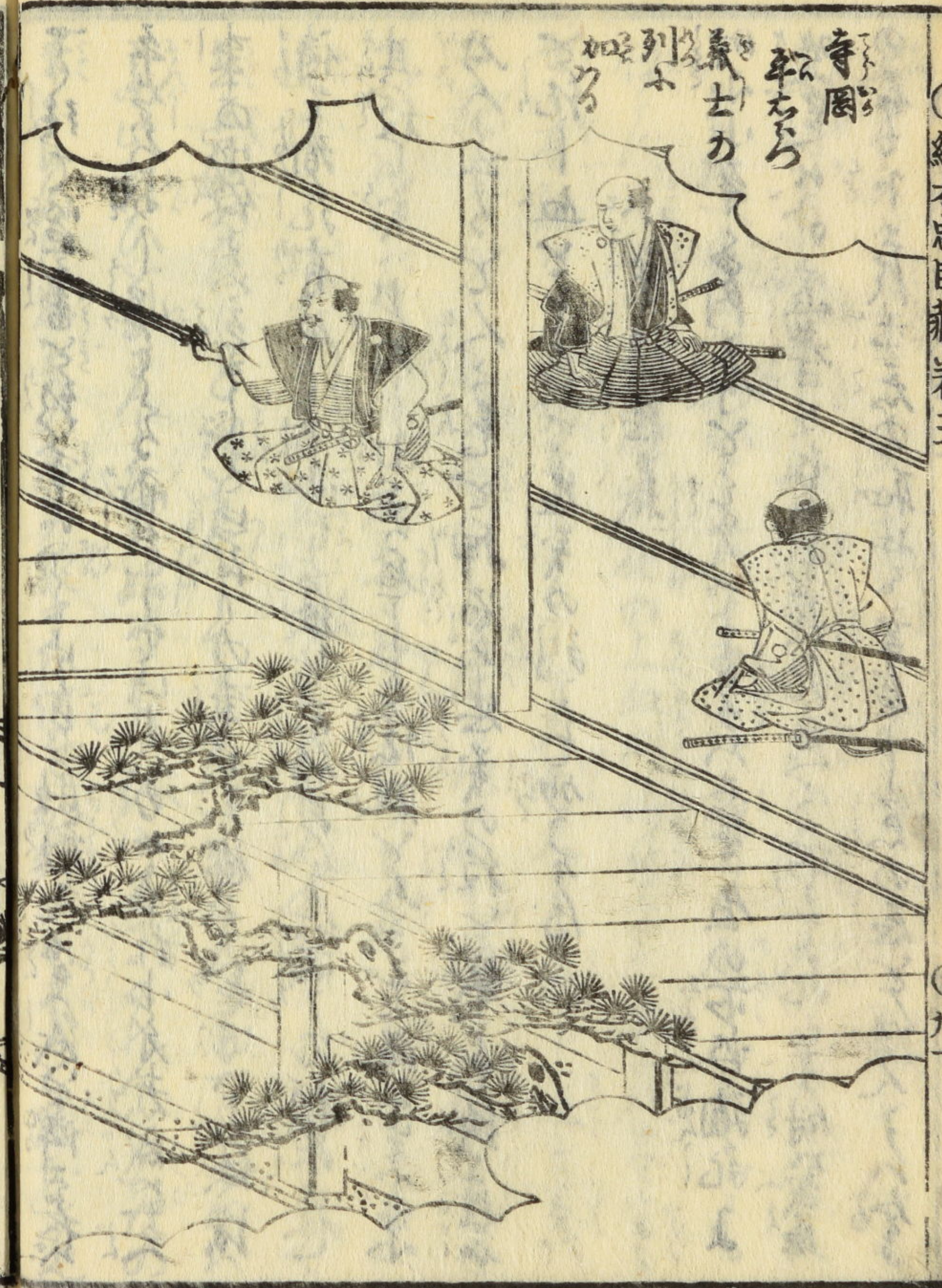
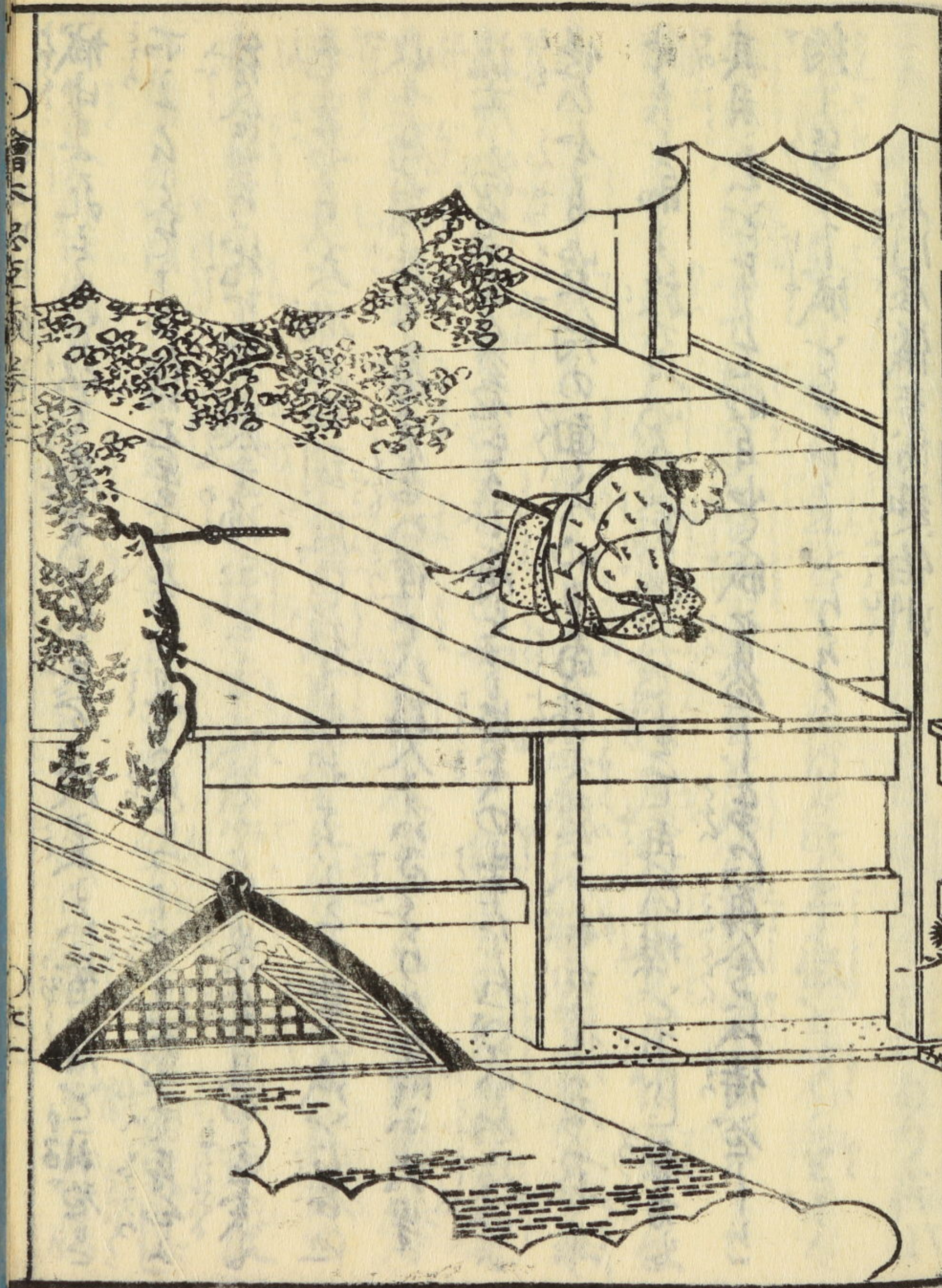
四十一

上
不
退
去
凡



繪本忠臣蔵巻三

四十二



新園
松七郎
義士力
如列
如る

繪本志臣集卷二

九

俗と家りたるおろ子城と町人の思ふ事の用もままたの
 中教の正法なる後より大出立入りの事どもわがごとくまがごとく
 たゞ天地改りたる懸ぐとどまらばけしむ事先達て城へ入て
 殉死と遂に危しとすて小座とせんん大星之末天川屋が
 全段の志しと知りたる息と事とありてりりく生る難死の
 安しとせたりとこの時ハ介より方若き向り事後の所む
 武士もなる振也國どうんは降り来ある多細も有る信介
 の命と事と揚り亡るのゆゑ一太事と相友事とをけりし
 して後痛太を小収び亡るのゆゑもわが彼合火水の中より
 大恐りたる人や承成とす大星をた収び誓志と
 かく神文の九痛小収無の知術とゆい夜討の武藝とれし
 名は後信太事とゆい後ら安町人の太事の内利と作社
 有終たれ彼合身ハ臨ぶるも休云仕事有るべしとて
 客事と傳てら故とゆりたり

芳田作を扱つ大井川を經る邊

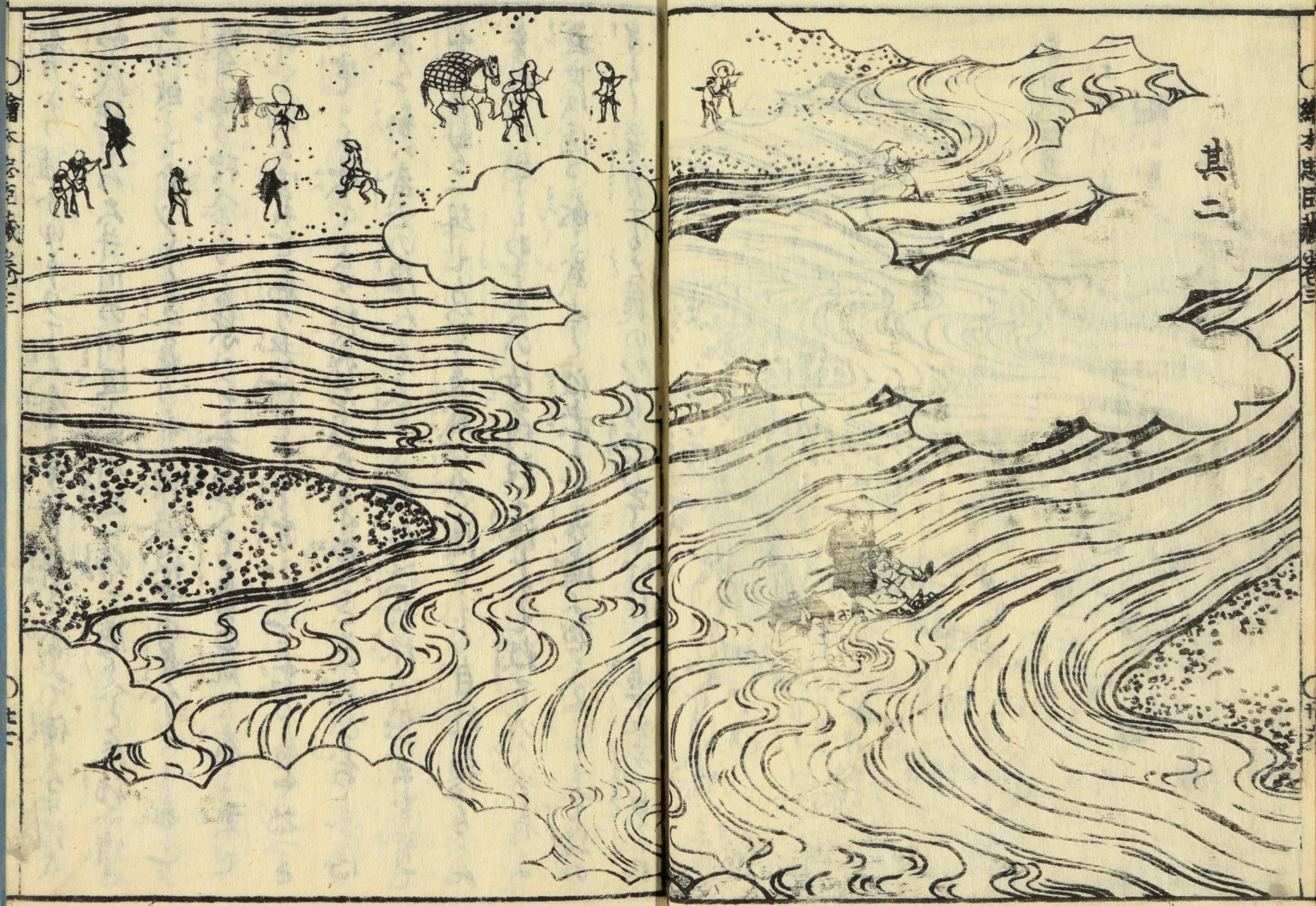
幸小峰へて思の一字と守りハ士たる者の道なりまに其眞の
 道若小芳田作たる和定と事者あり生質武術と好む事と
 旨しせし者成が君の寵恩けんゆき孝の例とせんん氣
 りりけりるの思愛小前後と忘下念心魂と連ぬる事思の仇
 と報ぜんし心と誓ひ一先和國と死た量よまて他も事と執人
 と速し深念と立赤尾と事と馳ゆるけ御り大坂道外場の
 芝石と林崎奇流と事とる女取の収者あり思量よりしと

秀田作左邊
大井川
登り馬



繪本忠臣蔵巻二

九十五



其二

卷之三

